

# 詩44篇 四季

松本 樹

文芸社

# 詩44篇 四季

松本 樹

著者・撮影者プロフィール

**松本 樹**（まつもと みき）

1968年 8 月30日生まれ

神奈川県出身

『詩44篇 四季』で初上梓

撮影レンズ Canon EF16-35mm F2.8L II USM

## 詩 44 篇 四季

---

2015年 3 月15日 初版第 1 刷発行

著 者 松本 樹

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060（編集）

03-5369-2299（販売）

印刷所 神谷印刷株式会社

---

©Miki Matsumoto 2015 Printed in Japan

乱丁本・落丁本はお手数ですが小社販売部宛にお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-286-14979-0

詩44篇 四季 目次

第I章 春

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 遠い昔からの想い                        | 8  |
| 就職活動                            | 10 |
| 原子力発電                           | 14 |
| 引越し                             | 19 |
| 2LDK                            | 21 |
| 15の春に                           | 22 |
| シングルマザー                         | 24 |
| VF400 AVANTGARDE YOKOSUKA JAPAN | 28 |
| 母の日                             | 32 |
| シルバリング                          | 34 |
| 私の実家                            | 38 |

## 第Ⅱ章 夏

|                |    |
|----------------|----|
| マルゲリータ         | 44 |
| 猫              | 46 |
| 父親として          | 50 |
| 6月、国道134号線下り車線 | 55 |
| ツバメ            | 57 |
| 微笑み            | 58 |
| 部活の引退          | 62 |
| 犠牲の島           | 64 |
| 夏の森の中で         | 69 |
| 海岸への道          | 70 |
| 原子力爆弾          | 72 |

### 第Ⅲ章 秋

|                 |     |
|-----------------|-----|
| ジャーナリズム         | 78  |
| 小高いこの場所で        | 81  |
| かの国             | 82  |
| バスケットのY         | 86  |
| 玄関先の小さな秋        | 88  |
| プラタナスの木         | 92  |
| 小学校教員           | 96  |
| 全国高校サッカー選手権大会予選 | 102 |
| 生まれ出づる我が子へ      | 107 |
| 大阪近鉄バファローズ      | 108 |
| 彼女のタバコ          | 114 |

## 第Ⅳ章 冬

取引先からの帰り道

120

変わっていないこと

124

クリスマスの大罪

128

冷夏暖冬

130

狂信

134

あるバイト先の日常

138

アダージョ ゆつたりと

142

待ち受け画面

146

夕暮れのヴァレンタインカード

150

看護師を目指している君へ

155

最後の雪

157

# 詩44篇 四季

松本 樹



詩44篇 四季 目次

第I章 春

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 遠い昔からの想い                        | 8  |
| 就職活動                            | 10 |
| 原子力発電                           | 14 |
| 引越し                             | 19 |
| 2LDK                            | 21 |
| 15の春に                           | 22 |
| シングルマザー                         | 24 |
| VF400 AVANTGARDE YOKOSUKA JAPAN | 28 |
| 母の日                             | 32 |
| シルバリング                          | 34 |
| 私の実家                            | 38 |

## 第Ⅱ章 夏

|                |    |
|----------------|----|
| マルゲリータ         | 44 |
| 猫              | 46 |
| 父親として          | 50 |
| 6月、国道134号線下り車線 | 55 |
| ツバメ            | 57 |
| 微笑み            | 58 |
| 部活の引退          | 62 |
| 犠牲の島           | 64 |
| 夏の森の中で         | 69 |
| 海岸への道          | 70 |
| 原子力爆弾          | 72 |

### 第Ⅲ章 秋

|                 |     |
|-----------------|-----|
| ジャーナリズム         | 78  |
| 小高いこの場所で        | 81  |
| かの国             | 82  |
| バスケット部のY        | 86  |
| 玄関先の小さな秋        | 88  |
| プラタナスの木         | 92  |
| 小学校教員           | 96  |
| 全国高校サッカー選手権大会予選 | 102 |
| 生まれ出づる我が子へ      | 107 |
| 大阪近鉄バファローズ      | 108 |
| 彼女のタバコ          | 114 |

## 第Ⅳ章 冬

取引先からの帰り道

120

変わっていないこと

124

クリスマスの大罪

128

冷夏暖冬

130

狂信

134

あるバイト先の日常

138

アダージョ ゆつたりと

142

待ち受け画面

146

夕暮れのヴァレンタインカード

150

看護師を目指している君へ

155

最後の雪

157

第I章  
春



## 遠い昔からの想い

ゆるやかな坂の上に、そのマンションはあった。

嬉しいこと、切ないこと、許されるのならやり直したいこと、様々な思い出が詰まっている駅からの道のりだった。

晴れの日も雨の日も、暑い日も寒い日も、夕焼けや星空が綺麗だった日も、お金は無かったけれど、今とは違う時間が流れていた。

携帯電話など無かった時代。

もう15年以上も前の話になる。

どんなに思っても今はもう、この気持ちが届くわけなどない。

今はもう、どんな苗字になってしまっているのかも分からない。

今はもう：

不器用だったが故に、本当に大切だったはずなのに、  
離れていくことを、止めることをしなかった。

心のどこかで、電話が掛かってくることをずっと待っていた。  
心の底から愛していた、掛け替えのない人だった、

別れてから気が付いた本当にたくさんのこと：

そう、今さら後悔したところで、何の解決にもならない話。

このマンションには、そんな女性が住んでいた。

## 就職活動

来週、ついにこの大学を卒業する。

皆が会社説明会の申し込みや、OB・OG訪問で奔走している間、俺は今まで一度も就活をしてこなかった。企業に資料請求さえしたことがなかった。

友人達は3年の頃からスーツを着てキャンパスに来るようになった。

「就活、どうすんの？」

「ハハハ…、どうしよっかな」

こんなやり取りを繰り返しているうちに、友人達は終いに声<sup>しま</sup>を掛けてこなくなった。

エリートとは言わないが、街道を外れたことは確かだ。